

1. 件名：福島第一原子力発電所における環境線量低減対策に係る面談

2. 日時：令和4年4月25日（月）13：30～15：00

3. 場所：原子力規制庁6階会議室

4. 出席者：

原子力規制庁 原子力規制部 東京電力福島第一原子力発電所事故対策室

松田室長補佐、横山係長

東京電力ホールディングス株式会社（テレビ会議システムによる出席）

福島第一廃炉推進カンパニー

プロジェクトマネジメント室 担当4名

5. 要旨：

- 東京電力ホールディングス株式会社より、福島第一原子力発電所における環境線量低減対策について、資料に基づき主に以下の説明があった。
 - タービン建屋東側における地下水及び海水中の放射性物質濃度について
 - ✓ 降雨等の影響により一時的な変動があるものの、横ばい傾向であること。
 - 港湾口海水モニタについて
 - ✓ 2022年2月15日に発生した設備不具合により測定が出来ない状態であったが、オイルフェンスガイドパイプ内に採水ホースを移設し、2022年3月29日より連続稼働を再開していること。
 - 原子炉建屋からの追加的放出量の評価結果について
 - ✓ 放出による被ばく線量は、年間 $0.03\mu\text{Sv}$ 未満であり、年間 $30\mu\text{Sv}$ と比べ十分小さく、先月の結果と比較しても大きな変化がないこと。
 - 福島第一原子力発電所構内の線量状況について
 - ✓ フェーシング工事や日本海溝津波対策防潮堤設置工事の進捗により、前回の2020年度の測定値と比較し、2.5m盤で $9.8\mu\text{Sv/h}\rightarrow 7.1\mu\text{Sv/h}$ 、8.5m盤では $102\mu\text{Sv/h}\rightarrow 99\mu\text{Sv/h}$ に低下していること。
- 原子力規制庁は、上記説明内容について確認した。

6. その他

資料：

- 環境線量低減対策スケジュール
- タービン建屋東側における地下水及び海水中の放射性物質濃度の状況について
- 1～4号機原子炉建屋からの追加的放出量の評価結果（2022年3月）
- 別紙 1～4号機原子炉建屋からの追加的放出量評価結果 2022年3月評価分（詳細データ）
- 福島第一原子力発電所構内の線量状況について
- 海水放射線モニタの取水ポンプ故障に関する対応状況について（続報）

➤ 海水放射線モニタの取水ポンプ故障に関する対応状況について

以上